

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月17日更新

事務事業名		就学指導委員会運営事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	青木洋治
	施策	19	義務教育の充実			所属課	学校教育課	担当者名	西島文江
	基本事業	61	学力の向上			所属班	学務指導班	(内線)	2226
予算科目		会計一般	款10	項1	目3	事業連番10620	法令根拠	学校教育法施行令第18条の2 合志市就学指導委員会条例及び同規則	成果優先度評価結果：⑩ コスト削減優先度評価結果：⑥
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	障がいのある児童、生徒について適正かつ円滑な就学の実施のため、一人ひとりの児童生徒の障がいの状態を詳細に把握し、慎重に判断することが求められている。【事業の内容】支援を必要とする子どもに対し適正な就学指導を行うため、就学指導委員会を組織し運営する。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	就学指導委員委嘱、会議資料作成、会議開催、報酬等支払事務
【主な予算費目】	報酬、費用弁償
【意見や要望】	特になし
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動)(DO)	障がいのある児童生徒の把握を行い、適正かつ円滑な就学を図るため就学指導委員会を開催した。	23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
		会議回数を1回増やす。 報酬：会議報酬3,700円×6人×4回=88,800円 費用弁償：医師10,000円×2人×4回=80,000円 医師以外2,200円×4人×4回=35,200円
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 回	予算の主な増減の理由
→ ア 就学指導委員会開催回数	→ イ	会議開催回数の増による増。(今年度、緊急に編入・転入学を希望する児童生徒があり、来年度も同様なケースが予想されるため。)
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	支援を必要とする子ども	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
		→ ア 次年度就学の幼稚園児・保育園児数 人
		→ イ 市内児童生徒数 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	障がいのある児童生徒の保護者の就学に関する相談事業や小中学校特別支援学級進学児童生徒の把握を行い、障がいのある園児、児童、生徒の適正かつ円滑な就学を図る。	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
		→ ア 対象となった園児、児童、生徒の就学率 %
		→ イ
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	
① 活動指標	ア 回		3	3	3	4	4	4	4	
	イ									
② 対象指標	ア 人		621	624	618	633	678	639	639	
	イ 人		5,172	5,262	5,316	5,334	5,495	5,614	5,614	
③ 成果指標	ア %		100	100	100	100	100	100	100	
	イ									
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	120	67	154	94	205	205	205
	人件費	(A) 事業費計	千円	120	67	154	94	205	205	205
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	67	55	89	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	2,280	1,997	1,997	2,163	2,163	2,163	2,163
トータルコスト(A)+(B)		千円	2,400	2,064	2,151	2,257	2,368	2,368	2,368	

総トータルコスト
全体計画
～ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)

事務事業名	就学指導委員会運営事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	学校教育課
-------	-------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部 (SEE)
 *原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 特別支援連携協議会コーディネーター会の幼保小部会でも、本市に在住する次年度就学予定の園児が在籍する近隣の幼稚園等に、学校と連携して支援が必要な子どもへの入学後の支援について協議するよう依頼し、特別支援学級や特別支援学校への入級・入学についての情報収集も実施している。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 法に定められた事務であり、現状を維持していくためには事業の継続が必要である。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 平成23年度委員18名中6名(医師2名、臨床心理士1名、幼稚園・保育園代表2名、施設代表1名)の委員報酬と費用弁償のみであり、削減余地はない。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 現在も必要最低限の職員で行っており、個人情報を取り扱うため委託もできない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 就学事務に関わるものであり、公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 市内の学校へ就学する児童生徒のもつ障がいや必要とする支援についての共通理解を図り、対象児への支援についての協議となるため、現在のやり方が適正であると考えられる。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

合志市の特別支援教育への取り組みを新聞等で知って、本市に転入して来られる保護者もあるため、年々支援を要する児童生徒が増加している。幼稚園・保育所に在籍する園児については情報が得られるが、家庭保育の児童については、就学してくるまでなかなか情報が得られない現状がある。健康づくり推進課と協力し、情報の収集に努める必要がある。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																						